

景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

製造業・非製造業とも横ばいで推移

～個人消費は依然として低調～

【概況】12月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが8.8%(前月調査11.4%)、「悪化」が38.8%(同43.0%)で、業界全体のDI値は-30.0となり、前月調査と比較して1.6ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-21.9で前月調査(-25.0)と比較して3.1ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-35.4で前月調査(-36.1)と比較して0.7ポイント上回った。

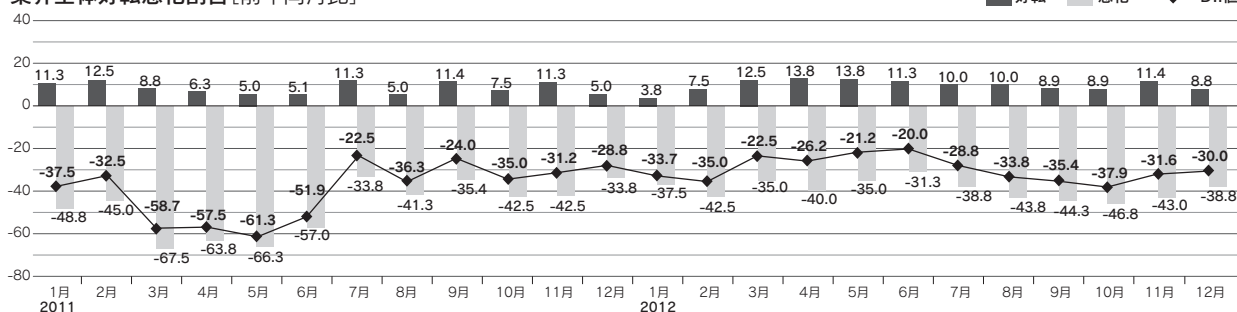
本来ならば、年末で人・物の動きが活発になる時期であるが、前半は衆議院総選挙が行われたことにより、タクシー業界では苦戦が強いられた。後半はクリスマス・年末商戦や忘年会等で需要が回復した一方、大雪による交通障害が発生し、タクシー業界に悪影響が出た。
(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☁	☔	☔	☁

【凡例】
 ☀ 快晴 30以上
 ☁ 晴れ 10以上 30未満
 ☁ 曇り △10未満 △10未満
 ☔ 雨 △30超 △30以下
 ☔ 雷雨 △30以下
【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

菓子	クリスマス・年末商戦の時期であったが、個人消費の悪化やコンビニチェーンの攻勢で組合員企業でクリスマスケーキの予約と売上が減少した。
繊維製品	例年に比べ冬物の追加発注は激減し、春・夏物の発注待ちの状態が続いた。発注元では、冬物の在庫を処分して次の生産計画を検討しているものと思われ、今月の工場への発注は少量に留まった。各工場は、来季のサンプル作りに対応しながら、その受注に期待している。
一般製材	冬季のため、住宅着工が減少し、地場需要は激減した。全国的には外材の動向が注目され、円安・ユーロ高により北欧材の現地価格の値上がりが見込まれ、ハウスメーカーやプレカット工場は国産材にシフトするものと思われる。
印刷	官公需、民需とも前年末に比べ受注量が15～20%程落ち込んだ。多少、衆議院選挙関連や年末商戦印刷物の動きは多少あったものの、前年同月の水準には及ばず、年賀状の印刷に関しては、前年の6割程度にとどまった。
自動車販売	12月の新車販売台数は、登録自動車が1,572台(前年同月比107.0%)、軽自動車が1,449台(同93.2%)で、合計3,021台(同99.9%)であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり144円で前月比1円20銭の下げ。軽油1ℓあたり125円40銭で前月比80銭の下げ、配達灯油は18ℓで1,679円で前月比16円の上げとなった。ガソリンと軽油は5週ぶりの値上げとなったが、マージンの回復には至っていない。灯油の販売に期待感が高まっている。
商店街	歳末商戦は、御所野・秋田駅前周辺大型店へ客足が流れ、年々売上が減少している。クリスマスケーキの売上も22日～24日が3連休であったため、大幅に平年を下回った。(秋田市)
タクシー	総選挙により人出が減り、短い忘年会シーズンとなった。また、暴風雪と積雪による道路環境の悪化により渋滞が発生し、運行効率が悪くなった。一方で、乗務員数が減少しており、乗務員1人当たりの運送収入は増収となった。
トラック	数量、収入とも前年同月比5%減で推移した。品目別では食品・日用雑貨が40%増、自動車部品が10%減、自主米30%減で他の貨物も減少している。燃料価格は前月比+3円、前年同月比+2円となっている。今後、日銀金融政策の影響による円安が進行し、原油価格を急激に押し上げ、燃料価格の大幅な値上げが予想され、事業収益への影響は避けられない。